

### 第3回 有識・議員部会 開催概要

日 時：令和2年12月14日(月) 18:30~20:00

場 所：尼崎市役所 議会棟2階 議員総会室

出席委員：久部会長、小坂委員、小森委員、松原委員、村田委員、安田委員、  
丸岡委員、楠村委員、徳田委員、山崎委員、綿瀬委員

欠席委員：川島委員、堂園委員

事務局：中川政策部長、橋本都市政策課長、都市政策課職員

#### 【議事要旨】

##### 議題1 開会

(部会長)

当部会と市民部会で出た意見を併せて専門部会にもっていくことになるが、その際、当部会で意見を取りまとめるというよりも、このような意見があったと専門部会に報告していくので意見にもれないか、言い回しなどの確認をしていただき、最終調整していきたい。

##### 議題2 まちの将来像について

(部会長)

前回までの議論を事務局で整理しているので、事務局から説明を聞き、まず、議題2「まちの将来像」について議論していく。

(事務局)

資料に基づき説明

(部会長)

市民部会は市民ベースの議論なので、当部会とは視点が異なるが、当部会の報告と併せてこの内容や、この表現でいいのか、そもそもこのようなまとめ方でいいのか議論していきたい。

(委員)

将来像について、市民部会の報告をみていると、子育てや福祉の視点が欠けているように感じる。尼崎市は低所得者が多く、また、子育て世帯の定住・転入促進は本市の最重要課題であるので、子育てや福祉の視点も将来像に位置付けておくことが必要ではないか。

(部会長)

最終的には、当部会と市民部会の意見を合わせて、専門部会に出していくので、どちらかの意見に含まれていけばいいのかなと思う。

これまでの総合計画策定の際は市民懇話会で話し合いをしてきたが、その中で産業の話はでてこないということが課題としてあった。それぞれの立場で意見が違うので、すべてを網羅することは難しいと思うし、そこでいうと、当部会のなかでも子育ての視点は出てきていないのは仕方なく、そこまで意見として盛り込むのか、市民部会の提言にゆだねるのが議論になると思う。

(委員)

きれいにまとめているなという印象だが、「らしさ」については、今の良いところを踏まえたくて新しい「尼崎らしさ」を今後10年で作っていくんだということも、計画に盛り込まれてもいいのかなと感じる。過去の「らしさ」にしばられずに、特に、外からみて負のイメージが強い部分は、戦後50年、60年、70年で作られてきたものが体外的に色濃く残っている部分もあるので、良い部分を活かして、新しい「尼崎らしさ」を作るんだということもあっていいのかなと思う。

(部会長)

将来像というよりも、次のステップでの「らしさ」の作り方の提言として、新たに1ページ加えるのもありかなと思う。

(委員)

「尼崎らしさ」でいうと、尼崎こそイノベーションを起こせるまちだと思う。スマートフォンを作った人がいるくらいなので、次に代わるものを作れるようなポテンシャルが尼崎にはあるし、イノベーションを起こせるまちとか、イノベーターが生まれるまちというのをに入れてほしい。

(部会長)

ここでいうと、「にぎわい・活力」など近い言葉はいくつかあるので、そのグループの中に加えるか。

(委員)

市民部会の報告書において、分かりにくいことがいくつかある。「ギャップが生まれるまち」は何と何にギャップあるのか、「高度 150m以下でも家につくまち」も意味が分からないので、このまま公表するのは不親切ではないか。「オフェンシブなまち」という意見についても、オフェンシブは、攻撃的という意味があるので、誤解を招かないだろうか。「YDC」という意見を、これでいいのかなと思うし、わかる範囲で説明していただきたい。

(事務局)

ワークショップの中で意見を出していただいているということもあり、そのままの意見を掲載してい

る。事務局の中でも、議論になり、分かりにくいところには注釈をいれているが、ご指摘の部分については、補足を加えるようにする。市民委員からの意見の意味合いが変わらないように考慮しつつ、誤解がないように修正していきたい。

(委員)

意見概要とあるので、全ての意見を拾う必要はないのではないかと。

(委員)

市民部会の報告書に「シャッター商店街がなく」とあるが、尾浜の商店街にもシャッターが下がっているところが多く、事実とかけ離れている。

(部会長)

市民がイメージする商店街は、中央商店街なのではないかと。

(事務局)

この意見出しにあたっては、現状を表しているのではなく、10年後、20年後にこういう姿であってほしいというのを見据えている。そういう意味では、当部会報告書の4ページにある「にぎわい・活力」につながると考えている。「ありたいまち」を探っていく中で、出てきた表現である。

(委員)

「尼崎らしさ」ということで議論を進めてきたが、尼崎は個性的な人がごちゃ混ぜになり、色んなルーツを持っている人が入ってくるまちなので、結局、「尼崎らしさ」って自分らしさを活かせるまちで、市民が生き生きと暮らせるまちなのかなと思うので、そういう視点があってもいいのかなと思う。

(委員)

資料第1号「有識・議員部会のまとめに向けて」(以下「当部会報告書」という。)の4ページにある、将来像に向けた意見で、「誰もが居心地の良いまちに向けて」など太字で書かれた5つが、これまでの意見のなかで将来像として抽出されたものなのか。

(事務局)

事務局で、これまでの議論をきかせていただくなかで、よく出てきたキーワードを抽出させていた。

(委員)

この太字の部分を将来像として進めていいのかという確認か。

(部会長)

いわゆる太字は、いくつもある黒丸の「〇〇まち」のラベリングで、これが1つの下敷きになって総合計画の将来像に置き換わっていくだろうと思うので、どこかに黒丸レベルでもいいから意見を加えてほしいとか、太字のところを変えてほしいとか、両方があると思う。整理しながら、議論できればいいのかなと思う。

(委員)

「にぎわいを創出し、未来へつなぐまちに向けて」を実現するために、具体的に何をしていくんだという方が議論しやすいので、そのような議論ができればと思う。

(部会長)

それが、当部会報告書の5ページにある次の議題「将来像の実現、課題の解決に向けてできること」になってくるのかなと思うので、そのあたり具体的に議論していただければと思う。

最後の部会なので、1人ずつ、この将来像の実現に向けてどんなことができるのかご発言いただきたい。個人でもいいし、組織・団体レベルでもいいし、自分自身や自分の会社はできないけど、誰かにやってほしいと思うことでもいいので、考えておいていただきたい。

(委員)

当部会報告書の4ページに何か書き加えることがあればということなので、どこに加えるべきかはわからないが、我々が子どもたち相手のイベントでよく使う言葉で「あまっこ」という言葉を加えてほしい。尼崎はごちゃごちゃした多様性や土着性が強く、すごく繋がっていたり、それが意味「あまっこ」というプライドであったり、そこがその子たちの賑わいや活力を生んでいた、「利便性・住みやすさ」を除いた4つに絡んでいるのが「あまっこ」なのではないかと思う。私は、尼崎で経済活動して、たくさんの友達がいるが尼崎で育っていないので、少し疎外感がある。外から見ると、住みにくいようで、住みやすいような、入りにくいようで入りやすいように感じるが、裏を返すと、「あまっこ」はすごく結束しているイメージがあるので、どこかに「あまっこ」という言葉がほしいなと思う。

(部会長)

事務局と考えていきたいが、委員がおっしゃったように、新しい「らしさ」をつくるという話のように、「あまっこ」の精神やプライドを活かしながら次のステージにというほうが書きやすいかもしれない。

(委員)

将来像かわからないが、尼崎は、大きな病院があり、地域にも病院があり、高齢者が安心して住めるというのが尼崎の一つの売りだと思うので、「充実した日々を過ごせるまちに向けて」の中にいれてもいいのかなと思う。

(部会長)

委員もおっしゃっていた「福祉+医療」を紡いで、それが安心につながるということだと思う。

(委員)

将来像の太字部分をみていて思うのが、神戸市や他の市に置き換えることも可能だと感じる。「らしさ」を議論してきたはずなのに、将来像となると、汎用性の高いものになるのはある程度やむを得ないが、どこかに「あまっこ」など尼崎らしい部分も入れたらどうかと思う。

(委員)

後ほど議論するとのことだが、先に意見させていただくと確かに当部会報告書の4ページにあるように、花びらをみていくと、これは都市像であり、都市は全部これが当てはまり、都市にはこういうものを含んだ多様性があるということだと思う。尼崎も武家文化があり、町人文化があり、色んな地方出身者が集まる多様性、産業構造も多様で、国際性・自然環境・多様性があり、近世の都市としても、近代の都市としても都市の典型で、あるいは都市を先取りしていたのが尼崎である。公害や生活困窮、犯罪など都市の持つマイナス面も先取りしており、都市の典型として、近未来の都市として、進化する都市として、どのようなものをイメージするのが、部会長や事務局から問われていることだと思う。そう考えると、都市というのはより多様に、そしてより共生するのが一つの特徴なので、それが一つの目指すところだと思う。加えて、大阪や神戸と違い、コンパクトで、大規模都市ではないというのが一つの特徴だし、市民のメンタリティや考え方も、人間みな一緒という共生の思想や考え方があって、まちが小さいだけでなく、等身大の都市というのが「尼崎らしさ」だと思う。

課題解決に向けてできることは、災害に強いまち、どれだけレジリエンスや防災力を蓄えるか、犯罪や交通事故についても、生活困窮者のセイフティネットに行政や社会福祉協議会（以下「社協」という。）がどのように機能していくのか、そのような都市の負の部分をもどのように解決していくのか、従来続けてきた歴史ある都市、等身大の都市をどのようにめざしていくのかなとみなさんの考えを聞きながら思ったところである。

(部会長)

委員の話聞いて、先取りには「さき」が入っていて、イノベーションは「先端」という意味で、尼崎にも「さき」が入っているのでこれからも「先」へ進んでいくというのはキーワードとしては面白い。

西宮で都市計画マスタープランをつくったときに、西宮は「園」がつく地名が多いのでなにか「園」が使えないかという話にもなった。西宮が「園」なら、こちらは「さき」とも思う。

(委員)

〇〇都市とあるが、西宮は文教住宅都市として、教育に力を入れていて、尼崎市にも環境モデル都市とあるが、大前提として〇〇都市というものがあったほうがいいのかと思う。

「ひと咲き まち咲き あまがさき」というキャッチフレーズがあるが、キャッチフレーズではなくて、大

前提としての都市像が欲しい。

(部会長)

我々の専門分野では、モザイク都市という色んなものが混ざり合っているという表現もあって、まさしく尼崎のように思う。

委員がおっしゃるのは、一つの言葉で尼崎がイメージできるような言葉があればいいということだと思うが。

(委員)

内容を考えてからネーミングしたほうがいい。ネーミングありきではなく、せっきくこれまで議論を煮詰めてきたので、ここからどういう将来像をつくるか、都市像をつくるか、そこからそれにふさわしいネーミングを考えたほうがいい。

(委員)

モザイクということだが、色々な多様性があって、色々な所から人が集まり、ごちゃごちゃしている、そういうところだからこそ、色々な問題もでてきて課題も先取りしている、イノベーションも生まれてくるのかなと思う。「あまっこ」も伸び伸びとしていて、個性的であまり枠にしばられずに、そういうイメージがあるので、そういう子どもたちが育ってイノベーションを起こしていくという都市が尼崎にぴったりだなと思う。

(部会長)

委員から典型的な都市だとあったが、都市というと「るつぼ」というが、るつぼはそもそも色々なものを入れて化学反応をおこして違う金属をつくっていくものなので、そういうイメージなのかなと思う。

(委員)

先ほど委員がおっしゃったように、将来像になったとたんにとこの都市も目指す方向性になる。

この総合計画を策定する際に、わたしも思ったのが尼崎という文字を見なくても、中をみれば尼崎の総合計画だとわかるようなものにしたいという話でスタートして、結局ここまできてこれが尼崎の将来像だとわかるようなキーワードがあればいい。いろんな意見があったが、今日必ずしもどうい言葉がいいと決めるのではなく、そういう言葉がきまれば、かなり尼崎らしい総合計画になるのかなと思う。

(部会長)

そのあたりは、時間をかけて総会でも意見をいただける機会はあるのかなと思う。まとめればまとめるほど、無難な言葉におさまるし、とんがりすぎてもその言葉にとげがあるから色々意見があり、難しいところである。

(事務局)

もともと現総合計画の点検を8月にまとめていただいて、今の総合計画の目指す姿が「ありたいまち」で誰もが共有できるまちの姿が将来像となっているが、その中に、「尼崎らしさ」をいれていこうと各部会で議論してきた。

今回出させていただいた当部会報告書にある5つのキーワード、これだけを見ると、どこの都市にでも当てはまるのかなと思われてしまうが、多々ある普遍的な言葉の中でもより尼崎に近い言葉を抜き出している。

「多様」というのは、どこのまちでも要素は入っているのかもしれないが、例えば「利便性」や「住みやすさ」は尼崎に特に言えることで、歴史的な部分で言えば、産業都市として発展した尼崎にとって「にぎわい」という言葉は尼崎らしさを示す言葉だと思う。普遍的な言葉を並べているが、なかでも尼崎に近い言葉を挙げていただいたのかなと思っている。

(部会長)

言い方を変えれば、ここの下につく2行くらいの説明文では、そういったところをはっきりだせるということである。この辺り、全体像を検証した中で、ご意見賜ればと思う。答えをこの部会で出すのは難しいので、最終的には、みなさんの意見を踏まえて部会の意見をまとめるということではなく、このような意見が出たということで、専門部会につないでいきたい。

(委員)

尼崎は歴史があり、変わっていくまちで、工業都市から変わっているように、変革しているので、その時代時代にあわせて変わっていけるということで、「変革都市」とかはどうかと思う。

(部会長)

私と事務局で専門部会へつなぐための資料を整理していく。

(委員)

意見を補足させていただきたい。当部会報告書の4ページの将来像が他市と変わらないという話だが、良質な都市というのはこういう要素を持っているということで、そういう意味では、他市と変わらない。それでもやはり「尼崎らしさ」というのもあるので、それをもっと伸ばしていくという方向で総合計画を作っていくのは大賛成である。

総合計画は、大体良い事を、こうあってほしい、こうありたいと書くもので、良い事も悪い事も先取りしてきた尼崎が、悪い事、先取りをいかに減らすのかということ、これを総合計画に書くかどうかは、一つ問われているのかなと思うし、ここでは議論しなかったのが、これをどうしていくのか、今後の議論でもしていただけたらと思う。具体的にいうと、災害のリスクをたくさん抱えている事、犯罪、交通

事故、さらには生活困窮という大都市の問題にどのように直面するかを総合計画にどのように落とし込むか、あるいは総合計画は夢を語るのも、そこには触れないのか。ただ、コロナ禍で生活困窮が顕在化しているので、そういう意味では先取りしているまちとして、どのように対応していくかは、総合計画にふさわしいのではないかと思う。

(部会長)

そういう問題をある意味解決方法としても先取りしていくということか。

(事務局)

総合計画のなかには、セーフティネットや災害などは、なんらかの形では触れていくと思うが、今議論いただいているのは構想で、将来像やまちづくりの進め方など、市の姿勢の部分であり、そういったところを議論しているので、その中に例えば防災の視点を盛り込むのかは議論の範疇(はんちゅう)だが、どのように組み込んでいくのかは、基本計画、部分の議論になってくるかと思う。

(委員)

理解している。構想に「負を減らす」をいれるのか、夢を語るのか、その両方で行くのか、あるいはその割合はどうするのかということを考えていただきたいという提案である。

(事務局)

悪い面も良い面も含めて10年後、20年後にどうなってほしいのかという視点で言えば、悪い面も課題を克服して、こういうまちになってほしいというのが将来像といえるのかなと思う。

(部会長)

先取りというのは、予見することなので、将来起こり得ることを予見して、それを先取り解決する。そうすると予防につながるので、そのように色々な側面をうまく含められるような方向性ができればいいかなと思う。

### 議題3 将来像の実現、課題の解決に向けてできること

(部会長)

それでは、次の議題にうつる。

将来像の実現に向けてできることについてご意見いただきたい。誰がどういう形で動いたらいいのか、行政以外の方々について考えていただきたい。協働で動いていく中で、市民や事業者と一緒に目的を実現するときに、誰がどう動いたらいいのかということを書き込んでいくための、アイデアをいただきたい。

(委員)

自転車というキーワードで考えてみると、道路の整備は進めているが、自転車の事故が多いのは、突き詰めるとマナーやエチケットに突き当たる。難しい部分があるのかもしれないが、市民の方がマナーやエチケットを身に付けていったら尼崎も変わるのかなと思う。

(部会長)

どうすればマナーはよくなるのか考えると、注意するだけでは、よくなる。一つ個人的な想いで言うと、地域で子どもを育てられるといいなと思う。具体的には、近所のおっちゃん、おばちゃんが子どもをきちんとしかれるような関係がある地域を作ることができればマナーも良くなっていくのではないかなと思う。

(委員)

自転車だけでなく、そういうことが広がっていけば良くなるのかなと思う。自転車に限って言えば、4つ角でとまれば加点されるというアプリもある。

(部会長)

小さな頃からシビックプライドを養っていけば、マナーも良くなり、温かい地域を作れたらというのが、委員がおっしゃられていることかなと思う。

(委員)

皆様のご意見を聞いていると人との接し方があって、人とのコミュニケーションを通じてまちづくりがあるということだと思うが、次の尼崎がどうなっているのかということを見ると、人口が減少し、高齢化がますます進んでいるだろう。しかしながら、次の総合計画が達成したときには、人口が増えていると言いたい。

震災以降は、財政難ということで、面的整備ができていなかったのも、社会インフラ、交通インフラの整備も含めて、尼崎はどの公共施設も老朽化している。社会的なインフラは、古いままで、かろうじて JR 尼崎や塚口には新しいまちが誕生したが、それ以外のところでは、この何十年同じものが継続してしまっているのかなと思う。

人と人のつながり、ネットワークを白井前市長から稲村市長にも通じてその辺を大事にされているが、面的整備が一切できていないのを踏まえて、このまま老朽化していく施設を放置していいのかということを考え、都市インフラを画期的に変えていかなければならないという姿を見せられたらいいのかなと思う。

(委員)

2040 年に高齢者の割合はピークになるということで、現役世代が増えていかないという大きなギャップがあるので、子育て世帯にやさしいまちは本当に必要だと思う。

その点では、市民部会の報告にある、「若者のアンテナショップが多く、近隣他都市から来る方が多い賑わいのあるまち」とあるが、尼崎は、交通の利便性が良い、若者が集える条件が整ったまちではないかと思う。そういう面から賑わいを取り戻せないかなと思っている。

(委員)

以前、尼崎の子どもの教育について触れたことがあるが、教育委員会の知り合いに聞いたところ、小学校・中学校の学力は全国平均に回復していると聞いたのでそこは問題ないのかなと思う。

また、歴史について、尼崎城の城主などについて、小学校でも学んでいると聞いている。時間はかかるが、尼崎の歴史や価値、シビックアイデンティティをしっかりと教育していくことが大事だと思う。若年層の「あまっこ」を育てていくために、市長肝いりの生涯学習プラザがあるが、そういう機能と、歴史を含めたまちの教育みたいな子どもたちの基礎教育をうまくコラボできないのかなと思う。そしてその中に、子育て支援で、働いている親が子どもを預けられる仕組みを作ると、尼崎のことを学び、もし、親が小学校に上がる前に尼崎を出ようとしたときに、子どもたちが、友達がいるから出ていかないと、引き止めるようになるのではないかと思う。時間はかかると思うが、将来の課題の解決に向けては、子どもと高齢者がカギになると思う。委員の発言のように、地域のおっちゃんらが子どもたちを注意できるような仕組み、そのようなものじゃないかなと思う。

実際に自身も中学校の時に友達がいるからと、私学ではなく、公立の学校を選んだことがあるので、そういうことがあるのではないかと思う。

(委員)

難しいと思うが、将来像ということで、将来、尼崎が関西の中心として発展してほしいと思っている。そのために、教育についても、全国平均をずっと横ばいで超えられないので、これからギガスクール構想としてタブレットも配付されるが、こういうのを活用して全国に先駆けて、「あまっこ」としての誇りも養ってほしいし、頑張ればどんなこともできるという姿勢を養ってほしい。

行政サービスについても、市役所に来なくても近くの公共施設で市役所のサービスを受けられるようにしてほしいし、避難所でもデジタルを取り入れ、マイナンバーカードの情報を本部へ転送すると、AIによってその方の薬が避難所に届くなど、全国に先掛けてやってほしい。

稼ぐ力もそうだが、センタープールを尼崎港に持っていき、万博開催時に尼崎に世界中の人を引っ張ってこられるようにしたい。尼崎は全国に無いようなことを取り込んで、関西の中心として発展していけたらと思う。

(委員)

地域が元気になるために、金融機関ができることを考え、経済が活性化しないと人が集まらないので企業が集まる仕組みというのは行政と一緒にやっていきたい。今は、創業支援やものづくりとかいろいろな場面で関わっているが、もっとこだわって発信できるようなかたちで、中小企業を集められれば、雇用も生まれ、人も集まり、税収も増え、そうなれば地域の活性化にもつながっていく。

SDGsのように分かりやすい目標をたて、事業者をここまでもっていくんだという分かりやすいかたちで発信すれば、新しい尼崎としてメッセージを出していけるのではないかなと思う。

(委員)

都市インフラ整備を進めていくのが、災害に強いまちにもつながるし、防犯にもつながると思う。今日も阪神尼崎駅からバスできたが、尼崎のまちは街灯が少なく暗いまちだと改めて感じた。都市インフラというのは、都市の住みやすさや品格をどのようにグレードアップしていくかなので、それが尼崎の課題としてあるのかなと思う。

ネットワークや繋がりについて、社協の理事長としての意見は、社協がその担い手として、公共性の高い仕事していくこと、地域福祉を推進していくことが仕事なので、まさしく正念場だと思う。地域福祉を進めていくことと、個別支援と地域支援と両方をやっていくのが全国の社協の考え方だが、尼崎では、社協というと、連協や町内会や支部などの地域団体として、社協という言葉が使われるので、旧来の村型で、都市型ではなかったが、今はそれを乗り越えていこうと、地域課と、まちづくりをされているので、社協と同じく福祉だけではなくまちづくりを進めて、市民自治を促進していかなければならない。まだまだ町内会の結成率は近隣の阪神間のなかでも高いほうなのでそういう良さをいかしながら、新たな繋がり、地縁組織だけでなく、問題や興味を共有するNPOや市民自治のいくつかの組織を糾合(きゅうごう)していく必要がある。

事業者も多く、昼間人口や交流人口もたくさんいるので、そういう人たちのプラットフォームとして、社協の新たなステージがきているのではないかなと思うので、社協にできることは多いのではないかなと思う。

(委員)

地域活動がメインになるが、特定の人ばかりがいるのが事実かなと思う。NPOに確認したら、点での活動はできているが、面になって広がっていない。

また、住んでいるマンションで子どもは会々と挨拶してくれるが、大人は挨拶しない。大きくなれば地域の人を遠ざけていくように感じるので、そこをどうしていくのか。一番の課題は、若い人たちが活動に参加できていないということかなと思っている。

(委員)

「あまだから」と自虐する人が多いが、自虐すると発展がないと思う。自分の住んでいるまちにプライドがあるなら、市民が自分の住んでいるまちを自虐的に表現するのはそろそろやめたほうがいいのかと思う。テクノランドにいくと、その周辺は東南アジアのスラムみたいにごみが捨ててあるが、市民にいうと「尼やからな」の一言で済ませる。

市民に尼崎を好きになってもらって発信してもらってもいいのかなと思う。

(委員)

武庫川の河口がごみの山になっている。あの辺は人が住んでいないので、見られてなければ捨てて大丈夫だろうと思うかもしれない。知らない現実をみると、人は振り返り、自分さえよければと捨てているとこんなことになるんだな感じると思う。自分たちのまちだという意識があれば、少し綺麗にしようかなとなると思うし、広い意味で自分たちのまちだと思うとマナーもおのずとよくなってくるのかなと思う。

また、支援という言葉があるが、支援というと、上から下にというように感じる。昔は困ったときはお互いさまみたいな助け合いとかがあったと思うが、今はなくなってきている。

行政だけで解決できないことが出てきている中、助け合いみたいなものを再構築しないと問題解決できなくなってきている。その点、市民活動などテーマ型のコミュニティのように点のネットワークはできているけど、面にはなっていないので、地域とは少し差がある。ごみ拾いにしても、それぞれで行っていて、一緒にできればいいのと思う。

子育てについても、待機児童が問題になっているが、高齢者が増えていく中で、元気な高齢者もいる。役割を与えると元気になるので、元気な高齢者が子どもをみれば解決する。今の課題同士をかけあわせると解決できるようになるのではないかなと思うし、そういうことができるのが尼崎ではないかなと思う。

(部会長)

うちの父は不動産屋をしていたが、自分の裁量で土地を動かせるし、そういう力があれば、民間ベースでもいろいろ動かせる。全国でも面白いまちは、地元の不動産屋が自分でできる範囲で色々な面白いことをやっていてそれが積み重なると、もっと面白くなると思う。土地を動かすには、力があるが、力というのは権力・資金力・ネットワーク力で、どれかあったら動かせると思う。一つひとつは小さくてもそれが、繋がることで一定の力になっていくので、市民事業者が繋がっていくようなそういうまちがいいと思う。

園田学園は、園田村の篤志家の人が集まってベースを作っている。戦前は市民の中でお金を持っている人が地域のために色々やってくれていたことが多かったと思う。経済的余裕がある人が支援してくれると、行政とは違う形で動くことが出てこないかなと思う。園田にはその伝統があったのでそういうものを見直したらいいのではないかな。

また、父の不動産屋も自分の資金だけではないので、尼崎信用金庫に融資をうけていた。その経験からお金を預けるなら、信用金庫がいいと思っている。なぜかという、そのお金は地元の企業に回り資金が循環していくからである。自分のお金の使い方について少しイメージを膨らませれば、そのような消費行動が預金行動になっていくと思う。そういうところをみなさんに訴えかけられないかなと思う。

私自身は、茨木で、色々な事業者さんとまちづくりをやっているのですが、電化製品を買うときも大型量販店ではなく、地元の商店で買い物をする。そうやってみんなが使いこなしていけば地元の商店はうるおってくるので、些細なことかもしれないが、一人ひとりが注意をすれば、お金の回り方も変わ

ってくる。外食する際にも地元の店で食べるようにしている。なぜならば、高齢になった時に、無くなったら困るからである。一人ひとりの消費行動でも、それが積み重なるとかなり大きな影響があるんじゃないかなと思う。

そういう些細なことでもいいので、一人ひとり心がけていくということを、総計のなかにも盛り込んで、色んな所に波及できればと思う。

改革という話がでたが、私は、最先端の生き方をやっているつもり。NPO がこれからの世の中を動かしていこうとする頃から NPO 活動をやっているし、「まちづくり」と世間が言う前から、まちづくりもやっている。尼崎市民も自分が最先端の生き方をする、あるいは自分がチャレンジをするということを積み重ねれば市全体が変わっていく。

守っていきたい人にとって、改革し、変えていきたい人と敵になり、改革するというのを喜ばない人達もいるので、そこで自分がどのような方向にもっていけるのかというのがないといけないし、尼崎市民もみんなが新しいチャレンジをしようといってくれればいいが。今のままでいいという人が多いと難しいので、市民がどっちの方向に向かって進もうとしているのか一人ひとり市民に問いかけて、市民の共感を引き出していかなければならないといけない。

(委員)

みんながそういう意識を持っていくのであれば、今日の議論のなかでも出たキャッチフレーズとして、みんながそういう気持ちを持っていけば「みんながさき」(皆が先)というのもいいのかなと。そうなってくると、プラットフォームが必要なので、そういう意味でも市民のプラットフォームとして社協は重要な役割を果たすべきと思う。

(部会長)

商工会議所も事業者のプラットフォームなので社協がつながるとすごいネットワークになると思う。

(委員)

事業者は、市民活動が活性化したり、労働人口が増えれば、工業の労働人口に引っ張られるかたちで商業が発達した時代があるようになるかもわからない。工場の隣に住宅がある立地の状態も、ある意味尼崎らしいと思うが、うまいこと共存していく仕組みを考えないと、そこそこの企業が出て行ってしまう。それも将来に向けて、どこか意識を持たないといけないと思う。

(部会長)

ものづくりも大きな変化期になっている。例えば、3D プリンターがあれば大きな装置がなくてもよくて、大工場はいらないし、自動車も電気自動車になるとモーターをつんでおけば誰でも自動車を作れるようになってくるので、ものづくりのあり方や質も変わって、昔のように大きな工場で大量に作る時代ではなくなってきている。そういうイノベーションを市内の事業者が尼崎市内でどう起こしてくれるのかも重要となってくる。

#### 議題 4 閉会

(部会長)

今回で有識・議員部会としての議論はいったん区切りとさせていただいて、事務局とわたして意見を整理し、専門部会につなげていきたい。

以上